

澤崎 豊は
考える

ひ じ ちょう もく
飛 耳 長 目

発行元：沢崎ゆたか事務所 魚津市北鬼江320 ☎0765-22-4060 ✉sawasaki@peace.ocn.ne.jp



6月議会はコロナ議会でした。質問する議員はマスク着用を義務付けられ、答弁に立つ県庁幹部もマスク着用。(傍聴者も) 質問もコロナ禍に関する質問が本当にこれでもかと言うほど多岐にわたり、質量とも十分な論戦が行われたのではないかと思います。6月補正額358億円とこれまでの対策の合計は759億円となり、リーマンショック時を上回ってきています。禪締直して頑張りますので、皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

澤崎 豊

予算の規模

- ◇ 一般会計補正額358億円 (6月補正としては、H23年度以来9年ぶり)
- ★ 補正額等の計759億円は、リーマンショック時の補正予算額(573億円)を上回る
- ★ 6月補正後予算6,467億円は過去最大

富山県議会は「開かれた議会」の一環としてインターネット議会中継がなされています。過去の本会議映像として6月議会の模様が視聴できます。是非、富山県議会ホームページにお立ち寄りください。

[富山県議会 議会中継](#)

[検索](#)

石井知事との論戦 3問

令和2年6月定例会 6月24日 予算特別委員会に立ちました。持ち時間は60分です。



Q1
(澤崎)

「夜の街」は大きな打撃を受けているが、「密」を前提としたビジネスモデルからの脱却を含め、今後どのように「夜の街」の賑わい創出につなげるのか？

Answer (石井知事)

人、モノの流れを創出し、落ち込んでいる県内の個人消費拡大に向け、対策を講じることとしている。県としても、例えば「認定中心市街地支援事業補助金」等を用意しており、市町村からの相談に応じ、積極的に支援していく。

- 連日の報道で「夜の街」=「危険地帯」のようなイメージでなっているが早期の払拭が必要です。

Q2

アフターコロナを見据えた広報戦略について、過去に制作された多くの既存映像のリメイクも含め、映像メディアの効果的な活用が有効と考えるが、今後どのように取り組むのか？

Answer

今後のアフターコロナを見据えた反転攻勢に向けた各種広報に取り組む際には、委員ご指摘の映像ツールの活用も念頭に、効果的な広報となるよう努めてまいりたい。

- チェック <https://www.youtube.com/user/PrefToyama>
首都圏などの大都市の電車や駅で流れます！



氷見海浜植物園ふわふわドーム
(レクリエーション施設)

Q3

「新川子ども屋内レクリエーション施設」の検討にあたっては、富山県が誇る施設となるよう、また、子どもの能力を多方面に引き出す多機能型の施設となるよう期待するが、今後、どのような検討委員による検討会を経て、どのような構想で進めて行くのか？

Answer

新川地域の小学生等の親御さんを対象にアンケート調査を実施し、来月上旬には、検討会を立ち上げることとしている。委員には、幼児教育等の教育分野や運動能力、建築、デジタル技術の有識者に加え、こどもの親世代や、新川文化ホールの利用者など地元の関係団体・関係者等に就任いただくとともに、非認知能力研究の国内第一人者や県内教育全般に精通された方を特別委員にお迎えし、ご意見・ご指導をいただくこととしている。

- 7月10日(金)、第一回の検討委員会が開催され、ミラージュランドや児童館等との違いや新川文化ホールとの機能連携など、活発な意見交換がされたようです。

6月予算特別委員会で答弁を求めた方々



石黒厚生部長



布野商工労働部長



堀口農林水産部長



伍嶋教育長

質 問

- 複合災害における感染拡大防止(厚生部長)
- 新型コロナウイルス感染症対応資金(商工労働部長)
- 洋上風力発電の影響について(農林水産部長)
- 富山湾の深海底質調について(農林水産部長)
- 漁業者の人材確保について(農林水産部長)
- 給食への提供支援事業について(農林水産部長)
- 県立学校のICT教育(教育長)
- ローカル5Gによる鳥獣被害防止(経営管理部長)
- 「不要不急」の定義付けについて(厚生部長)
- 映像メディアの観光戦略(観光・交通振興局長)



滝経営管理部長



中谷観光・交通振興局長

県土整備観光委員会での質問

6月9日の委員会での質問

- 県内観光の需要の喚起に向けた取組について
- 県発注工事における施工時期平準化について
- 県内建設業の新卒・中途採用の状況と今後の人材確保について

6月26日の委員会での質問

- 県管理河川における雑木伐採について
- 工事施工管理への在宅勤務の影響について
- 「地元で泊まろう!県民割引キャンペーン」のより効果的な取組みについて



樹木伐採の片貝川 ホントにスッキリ

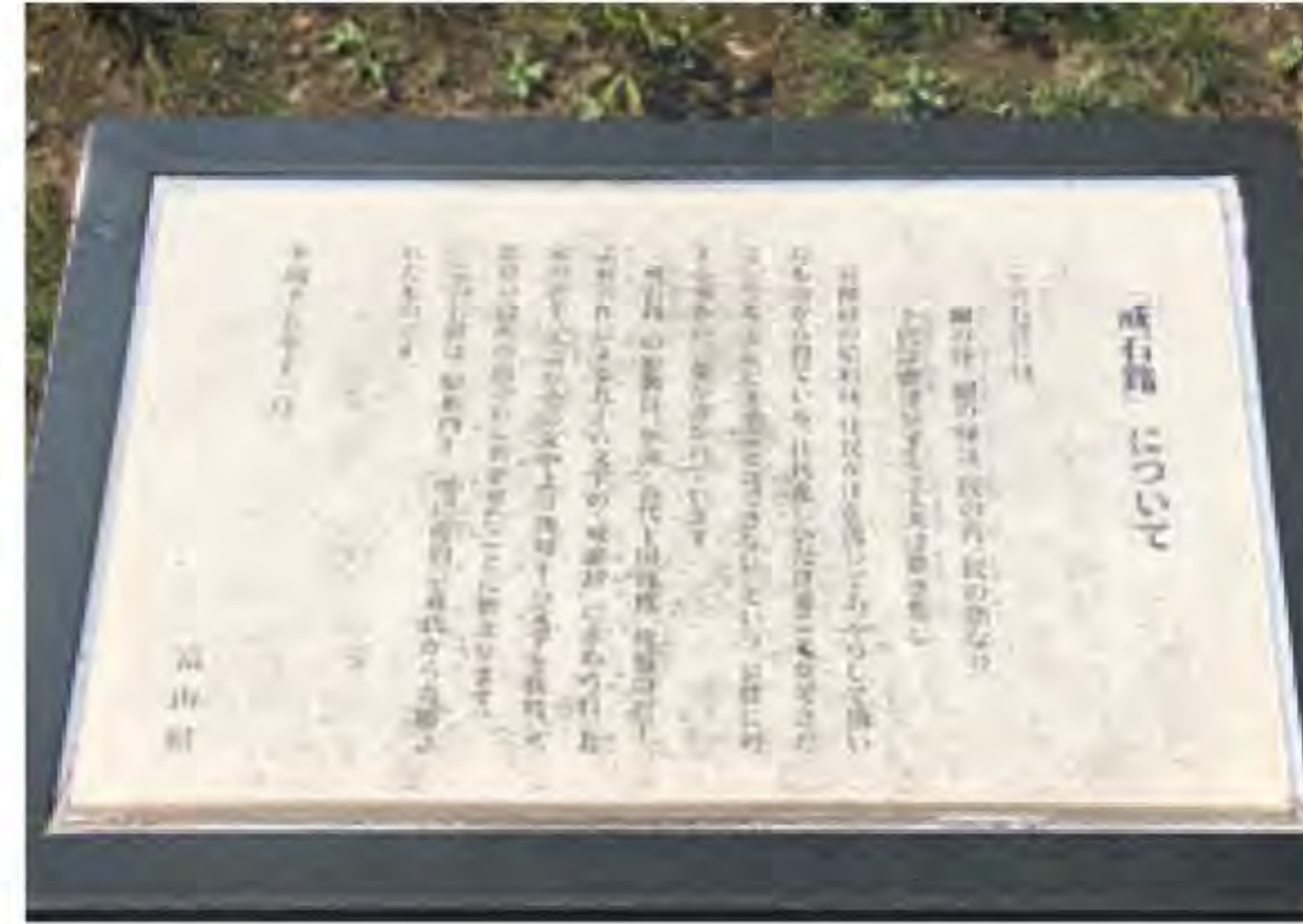


源氏虫も平家虫も飛び交う河川敷

富山県庁 探訪

舟橋立山町長のFBで「絶景堪能 さあ 立山にいこう。」のキャンペーンが紹介されていた。立山にトンネルを掘り、立山・黒部アルペンルートが全線開通したのが1971年(昭和46年)今から49年前の大事業。その大事業を熱い情熱で成し遂げた人物こそ佐伯宗義先生である…と。

富山県庁正面玄関左に目を移すと「戒石銘」がある。昭和42年、佐伯宗義先生が当時の吉田知



事の求めに応じ寄付したものである。そこには「公務員の給料は、住民が汗を流してあぶらして働いたものから得ている。住民をしいたげる事ができたとしても、天をだます事はできない」という漢詩が刻まれている。

北陸新幹線と佐伯宗義の思い 金山秀治氏(立山黒部貫光(株)元社長)から聞く

佐伯が北陸新幹線において立山連峰貫通を構想したのは、国土の均衡ある発展を図るには、新幹線という全国ネットの「国土開発」に対し、地方交通や観光開発を主軸とした経済圏をつくる「地方開発」が必要であり、対等の価値観と開発観によって進めてゆかねばならぬという強い信念からでたものである。

澤崎所感

コロナ禍で東京一極集中から地方分散型への転換が叫ばれる中、「地方の発展なくして国家の繁栄なし」とする持論をもつ、佐伯先生の足跡にあらためて思いを致す時でなかろうか。

ちょっと
一息〜



《ブレイクタイム》 奇跡の特効薬「ペニシリン」の発見は鼻水から!?

1922年にイギリスの医者アレクサンダー・フレミングは、この都合の良い物質を、意外なところから見つけ出しました。彼がたまたまくしゃみをしたところ、細菌を培養していたシャーレに鼻水が飛んでしまいました。翌日調べてみると、鼻水の周囲だけ細菌が増殖しなくなっていました。(諸説あります)
新型コロナウイルスのワクチン、治療薬の早期開発を望みます。



編集後記

「私は見た!」6月議会も大詰めとなった6月24日、午後の2番手眠気がおそう時間帯。張のある声で県当局に答弁を求める澤崎の姿に私は、つい「頑張れ、頼むぞ」とテレビに声をかけていた。

話しは変わるが7月3日に新型コロナを乗り越える取組のシンボルとして、新たなスローガンとロゴマークが発表された。そこから思い出すのは1996年の読売巨人軍。最大11.5ゲーム差をひっくり返してリーグ優勝をしたあの年、長嶋監督が言い放っていたメークドラマ。富山県も長嶋巨人軍同様メークスタイル フィニッシュと行きたいものだ。

O.H



yonene(ヨネクラユカ作)